



NPO HELP PAPER

【市民活動のヒント】

Vol.3:新聞に取材されたい！！

「私たちの活動をたくさんの人に伝えたい！」

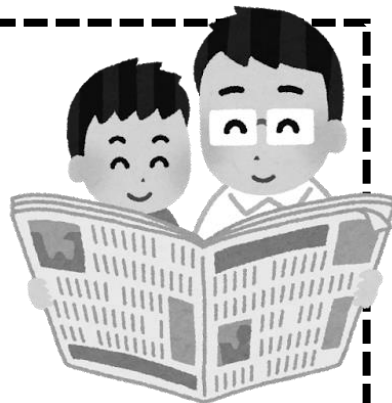
「新聞に取り上げてもらえたらいいなあ…」

黙っていても取材をしてもらえません。目指せ新聞取材！の第一歩です。

●新聞や記者のこと知ってる？●

『新聞』と聞いてまずは何を思い浮かべますか？朝刊・夕刊がある、社会面とかスポーツ欄とかテレビ番組表とか色々な情報がある…。

でも、それ以上は意外と知らない方も多いのではないのでしょうか。新聞によっては「版」があります。例えば静岡新聞では「静岡・志太榛原」「東部・伊豆」「浜松」「中東遠」の4版の地方版があります。島田市は志太榛原版に含まれます。志太榛原版は約106,300部も発行されているんです。



また、新聞は、記者の人が取材して書く「記事スペース」と、企業やお店などの「広告スペース」で構成されています。記者の人たちは、それぞれ地区に構えた支局を中心に担当記者1～2名が取材活動をして記事を書いています。記者は毎日、朝8時ころ警察回りから始まり、市役所を回ったり、取材活動を行い、その間に新聞の原稿を書いて…と本当に忙しく飛び回っているんです。

●記者の方々に取材してもらおうのは至難の業？●

そんな多忙な新聞記者の方々に、自分たちの活動を取材してもらおうのは至難の業…？と思いますよね。そんなことはありません！上手に自分たちの活動の情報を伝えることで、記者の方に興味を持ってもらえれば、取材してもらえるチャンスが生まれます。あなたの市民活動を多くの人に知ってもらいましょう！ただし、記者の人は本当に大忙しです。取材は、ダメでもともと、してもらえたらラッキー！と思うようにしましょうね。

●取材されるといいことは？●

では、新聞に取り上げてもらうと、どんなメリットがあるのでしょうか。まず一番大きいのは、地域の多くの人に活動を知ってもらえるということ。ブログやSNSを活用して活動を自分の言葉で伝えていくことはもちろん重要ですが、インターネットを通じて伝えられる人の層は限られます。新聞に取り上げてもらうことで幅広い層の、多くの人の手元に情報が届くことになります。

また、自分の言葉で伝えるブログやSNSと大きく異なるのは、記者の言葉で伝えてもらえること。取材のプロの目線から客観的に見た活動や取り組みの長所や魅力は、新聞を通じて情報を受け取った読者に信頼感が生まれます。

加えて、情報の広がりというメリットとも言われます。市の職員が目にするので、市民の声として行政に届くこともあります。他にも、新聞記事を読んだ他のメディアが興味を持つことも。そうした次なる取材のチャンスにつながるかもしれません。

編集
発行

島田市市民活動センター

(市民活動支援業務：NPO法人クロスメディアしまた)

島田市本通三丁目6-1 (島田市地域交流センター「歩歩路」内)

0547-33-1550

市民活動センターでは会議室などの施設利用に加えて、市民活動団体やこれから活動を始めようとする皆様を支援の場です。

【開館】年中無休

※年末年始(12月29日～1月3日)を除く

【時間】9:00～22:00

※市民活動センター利用21:30まで

【相談受付】

原則週3日(月・水・金)

10:00～15:00

※相談希望の日時はお気軽にお問合せ下さい。

●まずはここから。プレスリリース作りのススメ●

■情報提供しないと始まらない！

取材流れは【①支局への情報提供→②新聞社での取材の決定(必要に応じて事前連絡)→③取材の実施→④新聞への掲載】となります。なにより大事なことは、情報提供をすること。膨大な情報が集まって日々忙しく活動している新聞記者の目に触れてもらうためには、まずは情報提供を行うことです。

イベント取材は「5回目」「10回目」など節目となる回数の際は取材しやすい

新聞社への情報提供のことをプレスリリースといいます。イベント等の場合には、チラシを提供するだけでもOKなのですが、担当者は誰なのか？詳細な開催時間は入っているか？等を確認のうえ提供する必要があります。そのため、情報を正確に伝えるためにプレスリリース資料を作成し、チラシと一緒に提供するのが一般的です。

■プレスリリース文章の書き方は？

<①タイトル②リード文>は、内容を一言で。どんなイベントなのか一瞬で分かるような文章でアピール！チラシ等では説明しきれない内容を、できるだけ詳しく補足説明しましょう。固有名詞や数字データ等には細心の注意を。<④⑤問い合わせ先>は、担当者を決めて明記。誰に聞けばいいかわかるようにするのは絶対です！<⑥チラシ等の資料>は添付を忘れずに！

プレスリリースでは「告知希望なのか、当日取材希望なのか」を明確にするのがオススメ！

報道関係者各位

〇〇年〇月〇日
NPO法人〇〇〇
住所

① タイトル

② リード文 ○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○

③ 本文 ○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○

④ このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで
NPO法人〇〇〇広報担当〇〇

⑤ TEL
FAX
メールアドレス

⑥ 参考資料(2枚目以降)

■新聞社への情報提供の方法は？

【いつ??】イベント等の紹介なら、開催日の2~4週間前頃までに情報提供をしましょう。できるだけ早めに依頼をかけることで、たくさんの企画がある中から調整してもらいやすくなります。

【どうやって??】島田市役所内にある記者クラブにプレスリリースする方法が基本。まずは、3階の広報課へ持参して「プレスリリースしたいのですが！」と、伝えましょう。広報課へ持参する場合は、18部(新聞社、テレビ局分など)提出が必要となります。また、直接新聞社の支局へ「FAX」するのもGood！メールでも可能ですが、新聞社に届く膨大な量のメールに埋もれてしまうのであまりオススメできません。FAXをしたら、必ず「着きましたか？」の確認をしましょう。

新聞に提供できるように写真を自分たちで撮影しておくことがオススメ！記者が取材に来れなくても、地元の支局に電話して写真をメール送信して掲載してもらう手段もあります。

【その他】イベント開催日近くなったら、再度確認のTELもしましょう。記者はとても忙しいので、つつい忘れてしまうことも。催促するのは悪いことではないので、臆することなく、「取材してもらえませんか？」とPRを。

●取り上げてもらうチャンスを増やすには？●

☆1回より2~3回。取材の節目を作る☆

新聞記者は、日々取材等で飛び回り、事件・事故があれば優先して取材にいかなくてはなりません。そのため、取材依頼をしたイベント当日に行くことができないことも十分あり得ます。イベント当日だけではなく、そのための準備についての様子や、終了後の会議の内容など、小さな節目を作って、その都度プレスリリースして記者に伝えるよう習慣づけましょう。

☆「太く・短く」より「細く・長く」☆

単発の大きなイベントは話題性はありますが、記者が取材に行けないこともあります。大きな出来事でも、前述のように準備や会議の内容等、小さな出来事を、長期的に伝えて、記者と長くお付き合いすることを心がけて。

☆日頃から新聞を読む習慣をつける☆

記者もやっぱり人。自分たちの新聞を読んでいない人に頼まれるより、読んでいる人の活動のほうが記事にしたい、と思うもの。信頼関係を築くためにも、日頃から新聞をよく読んで、どんな内容が注目されるのかを知っておきましょう。

☆いい写真を撮れるように協力を☆

新聞には地域ごとの記事の数が割り振られていて、各支局の記者が取材してきた中から選ばれます。その中でいい写真の記事は選ばれやすい傾向があるよう。できるだけ大きく取り上げてもらうには、写真はとても重要。そのためには、取材してもらう時間帯をきちんと考え、記者が取材に来たのに、担当者が不在…は無いように。